



西条市全景

どう考える？  
市民憲章・市のシンボルの制定

(市民クラブ)

### 問

合併から5年が経過し、「人がつどい、まちが輝く快適環境実感都市」を将来都市像とした、新しいまちづくりが展開されている。

まちづくりの基本方針や将来都市像を具現化するためには、だれにでも理解しやすい市民憲章の制定が必要ではないか。

また、市のイメージを定着させ、住民の連帯感を高める意味においても、木や花などを制定することは大切なことと思っているが、市の考えを問う。

### 答

市民憲章や市の木、市の花については、合併後に新たに定めることとしており、市の鳥、市の色、市の歌については、合併後必要に応じて定めることとしているが、現在はまだいずれも定めてはいない。

市民憲章や市のシンボルなどの制定については、市民のなおいっそうの融和と一体感の醸成を図ることにより、制定への機運が高まるものと思っている。

利用状況は？

市立西条図書館

(市民クラブ)

### 問

市立西条図書館は、生涯学習の拠点施設として、

大きな役割を担うことになるが、本年6月開館以来、今日に至るまでの入館者数は、どの程度か。また、他の図書館では、書籍の無断貸し出しや破損など悪質な行為が見受けられるようであるが、どのような対策を講じているのか。

さらに、市民から寄付された書籍の保管と併せて、今後の蔵書計画をどう考えているのか。

### 答

本年6月の開館から8月末日までの3か月間の入館者数は17万6千436人で、1日平均1千982人である。7月21日には10万人に達したところである。書籍の貸し出し人数は5万8千172人で1日平均657人。平成21年8月末現在の貸し出し冊数は19万6千33冊で1日平均約2千200冊となっている。

書籍の無断持ち出しは、ICゲート(フザー警報装置)の設置効果もあり、開館以後は無断持ち出しの事例はない。また、本の破損状況は、返却時にスタッフを確認し、現在のところ破損の



全国に誇れる図書館を目指して

報告は受けていない。

寄付本については、企業・団体などから1千810冊、市民などから3千190冊の合計5千冊余の寄贈図書をいただいている。

蔵書計画は、開館後10年を目途に、目標の40万冊を想定している。寄付本などの受け入れも積極的に行いながら、図書資料の充実に努めていきたい。特に、「水」「食」などの専門図書、古文書、郷土資料をはじめ、各界各層におけるアーカイブ資料に関する蔵書については、学識経験者や地元有識者、企業関係者などの人脈を駆使し、西条の特色ある図書資料の収集に努め、全国的にも誇れる西条の独自性を強調できる図書館を目指したい。

どう対応するのか？

全国学力・学習状況調査

(無会派)

### 問

全国学力・学習状況調査は、他県、他市と比較することより、教育力を向上させる基礎・基本の学力を見直す良い機会であると考えます。

平成19年に本調査が43年ぶりに実施されたことで、教育現場

に生じた影響、変化はどうか。また、調査の分析、検証を行った結果、どのような学力向上策、学習方法の改善を行うのか。

### 答

各学校では、平成19年以前より、これに類する学力到達度検査などを混乱なく実施している。実施の目的も明確に示されており、結果は学力の一部であるというところが徹底され、児童・生徒や学校の競争意識をおおるものではないという考え方が浸透し、現場では冷静な対応がなされている。

今後は、問題解決的な学習や探求的な学習活動を充実させることにより、思考力・判断力・表現力を育てることを意識した授業を行うほか、総合的な学習の時間を教科学習と関連した活動を行い、言語活動を重視し読む能力を育てる指導の実施、道徳教育や規範意識を大切にしたり取り組みなどを展開することとしている。

